



▲平和祈念の碑



▲sora かさいの展示



▲実践報告の様子

第46回 平和教育実践交流集会 in 加西

～地域の戦争史跡から平和について考え、つながり、深め合う～

10月21日、加西市立善防中学校で第46回平和教育実践交流集会が開催され、県内各地より78人が参加した。

午前は鶴野飛行場跡地周辺でフィールドワークをおこない、午後は実践報告とグループ交流会がおこなわれた。

実践報告

「鶴野飛行場の歴史から平和を学ぼう」
九条小 岩佐 智恵美さん

6年生の総合学習で1・2学期のカリキュラムとして、校区にある地域活性化拠点施設「sora かさい」をテーマに取り上げた。

1学期に「sora かさい」について調べ、学習をした。しかし、子どもたちはここが平和学習の施設であることについてあまり考えたことはなかった。そこで2学期は「戦争について正しく知りたい」、「日常とつながる平和教育をおこないたい」、「子どもが気づき考える平和教育にしたい」という願いを持ち、「鶴野飛行場の歴史から平和について考えよう」という单元を組んだ。

鶴野飛行場跡地や「sora かさい」の見学に行き、実際の戦跡にふれることで、特攻兵の思いについて考えた。その際、「特攻兵が自分の命と引き換えに守りたかったものはどのようなものだろう」ということを考えながら学習をすすめ、過去の恐ろしい事実を知るだけの平和学習ではなく、その施設が担っている平和への願いについて学習することで、前向きにとりくめたいと考えた。

また、「これからも平和で幸せな日本であるために」、「これから平和で幸せな日本にするために」、「自分たちができることを考え、各々で課題を設定し学習をすすめた。

子どもたちは「sora かさい」を見学し、戦史研究家やボランティアの話を聞き、学習できるという恵まれた環境にある。そこで

戦争のことを知り、当たり前前にあり改めて考えることのない平和について考えることができた。「戦争を無くせば平和」ではなく、「平和な世の中とは」と考えることで「平和を希求し」、「平和を守る」大人に成長してほしいと願って学習をおこなった。

「鶴野飛行場から平和を学び、つながる」
善防中 飯尾 太一さん

昨年、鶴野飛行場の平和学習と平和交流会をおこなった。平和学習は戦争史跡を見学し、平和交流会では「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」の協力により、オンラインで鹿児島県鹿屋市立串良中学校の2年生と地域に残る戦争史跡や、平和について学んだことを発表し、意見交流をおこなった。

平和学習・交流会にむけて、「加西市民として、鶴野飛行場の歴史を知り、その中で戦争の悲惨さや平和の尊厳を感じ、自分から平和を考え、広める人になっ

てほしい」という願いを持ってとりくんだ。そして、平和学習の目標を「鶴野飛行場について、飛行場の目的や歴史を知る」、「調べたことや見学したことをまとめ、鶴野飛行場と関係のある鹿屋市の中学生との交流を通して、主体的に平和について考える」と設定し、学習をおこなった。

鶴野飛行場では、子どもたちがガイドの話を真剣に聞き、積極的に質問をしていく。戦争になれば、兵隊だけでなく、自分たちの生活まで変わってしまうことや、鶴野飛行場の広さを実感し、「ここで数十台の飛行機が飛んでいたのか」と驚く子どももいた。

「sora かさい」では、実物模型を見ながら鶴野飛行場の当時の様子を想像し、事前学習で遺書を数点

読んでいたもので、特攻に行く人たちの気持ちをより深く理解することができた。

平和交流会では、36人のクラスを3つのチームに編成し、さらに①地域学校紹介、②戦争史跡の紹介、③平和学習を通して学んだことの3つのグループに分け発表の場をつくり、串良中と双方で交流会をおこなった。このようなとりくみの中で、鶴野飛行場の歴史を知り、その中で戦争の悲惨さや平和の尊厳を感じながら、「自分から平和を考え、広める人」に近づきつつあると感じた。

子どもたちがつくったスライドには、残された遺書から平和について考えた発表があり、二度と戦争を繰り返してはいけないという思いを伝えていた。

平和学習を通して、子どもたちは命の大切さや当たり前のことができる日常の大切さを実感した。しかし、平和の必要性を実感できたとしても、学び続けたいと平和への意識は薄れてしまいうため、その必要性を広めていかなければならない。

そのためには、平和教育について小中連携をはかり、継続的なとりくみが必要である。

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合
代表者 森 戸 卓 也
編集人 小林 健
電話 050 (3538) 2346
1部15円 年定価360円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2023/11・1
No. 2080
第50期青年部労働学校

参加者感想より

鶴野飛行場は以前から一度訪問してみたかった場所だった。ボランティアガイドの方に説明をしていただきながら見学でき、とても良い勉強になった。

フィールドワークを通じて、身近にある教材を使うことで学習を掘り下げていく機会とすることができたのではないかと考えた。

平和教育の中で、「戦争はだめ」だけでなく、今の自分の周りの平和のために自分ができることは何かなど、子どもたちと一緒に考えていきたい。実際に戦闘機や防空壕を見たり、私記に記されていたことから考えたりするなど、平和に関することを子どもたちに伝えていくことが、果たして自分ができるか不安に感じたが、交流の時、「教職員は伝えることだけが仕事ではなく、教職員自身が学ぼうとしている姿勢を見て、子どもたちも学ぼうとする」と言っていたとき、自分の考えが少し変わった。

「平和のために」
芦屋市立精道小学校 6年
丸岡 のあ

平和のために
かたりつく
わすれないように
かたりつく
たくさんの
命をうばう
戦争を

『子どもの詩と絵 第43集』より

あんしん むすぶ
教職員共済

さまざまな声に応える生命・医療保障

死亡 団体生命
入院 医療共済
特定の病気 医療共済
トリプルガード 団体生命共済・医療共済

トリプルガードは、「死亡」を保障する団体生命共済と、「入院」「特定の病気など」を保障する医療共済で、3つのリスクをガードするという意味からつけた愛称です。

貯金もしたいし手頃な掛金で最低限の保障からはじめたいな
家族構成などの変化に合わせて契約内容を見直せるといいね

配偶者やお子さまもご加入OK！
詳しくはホームページへ！
お問い合わせもお気軽にどうぞ！

教職員共済 検索
https://www.kyousyokuin.or.jp/

※ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。制度内容をご確認ください。

資料請求・お問合せは
厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 兵庫県事業所
〒650-0004 神戸市中央区中山手通 4-10-8 ラッセホール 4F
TEL 078-221-9730
イメージキャラクター
あむりん

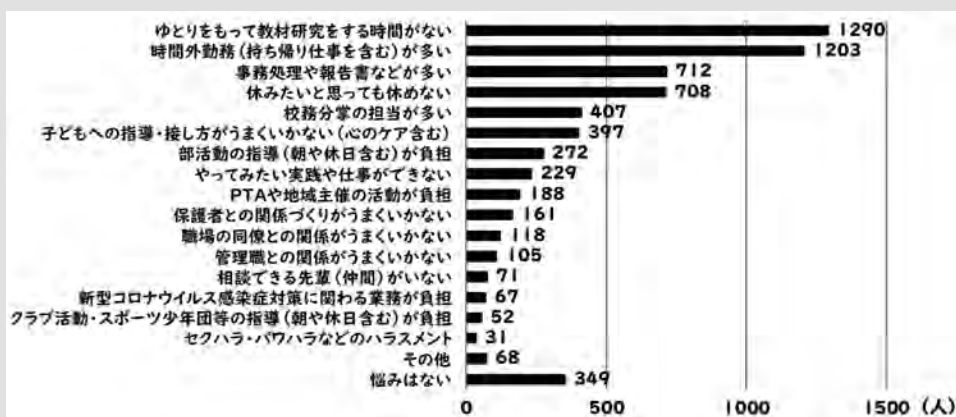
生活・職場実態アンケート
回答者分布（数字は％）

校種	小学校	中学校	特支・養護
	73.5	25.2	1.4

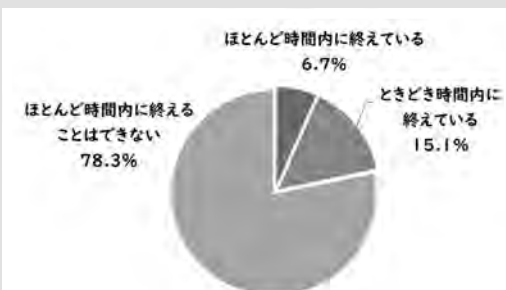
第50期青年部労働学校

教職員が心身ともに健康であることが、
子どもにとって最高の教育条件整備！

いま、あなたの仕事上の悩みはどんなことですか？（複数回答可）

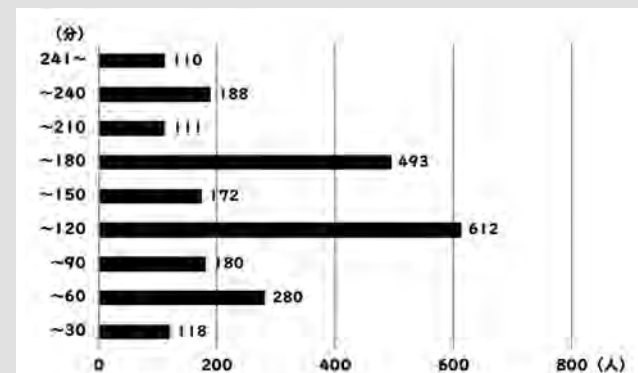


あなたは、仕事を勤務時間内に終わることができていますか？

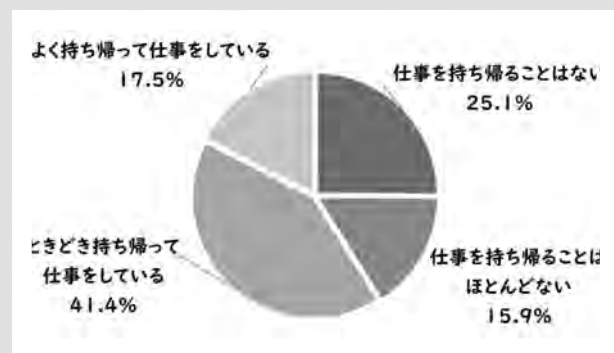


一日平均の超過勤務
2時間30分

あなたは、普段職場で一日平均どのくらい時間外勤務（勤務時間開始前・休憩時間も含む）をしていますか？



あなたは、普段自宅に持ち帰って仕事をすることがありますか？



持ち帰ってしている仕事は、一日平均（持ち帰った日の平均）どのくらいですか？



一日平均の時間
1時間2分

生活・職場実態アンケートより
2,265人から得られたアンケート結果によると、職場での超過勤務の一日平均時間は2時間30分で、昨年の調査結果より2分長くなり、依然として超過勤務の多い現状は変わっていない。さらに、持ち帰り仕事の一日平均時間は1時間2分昨年1時間5分と、あまり現状は変わっておらず、ワーク・ライフ・バランスの改善がすすんでいない実態があらわに

また、「休憩時間がきちんと取れていますか？」に対し、56.2%が「まったく取れていない」と回答しており、なかには「16時から16時30分の休憩時間には会議や研修が入ることがある」といった声もあった。さらに、「わたしたち青年教職員がいきいきと働き続けられる職場であるために、どのようなことが必要だと思いますか？」に対し、「教職員の定数改善」、「勤務時間内に仕事が終わるような抜本的な業務削減」と

回答した人が2,000人近くもあり、教職員の業務の多忙さが改めて浮き彫りとなった。その他の記述では、「業務改善の兆しが見えず、毎日自分の身体を誤魔化しながら働いているのが周りの子どもにも伝わっている気がする」、「病気休暇の取得等で教職員が減った際に、代替教職員が配置されないことでそれぞれの負担が増え、職場の雰囲気も心なしか悪くなっているのを感じる」などの悩みや不満の声が多くあった。

その一方で、「悩みを聞いてくれる人が職場にたくさんいるので助かっている」、「毎日学ぶことが多い」、「やりがいを感じ、充実している」という声もあった。このような青年の声を増やせるように、私たちがいきいきと働ける職場づくりにむけ、声をあげ、とりくんでいこう。

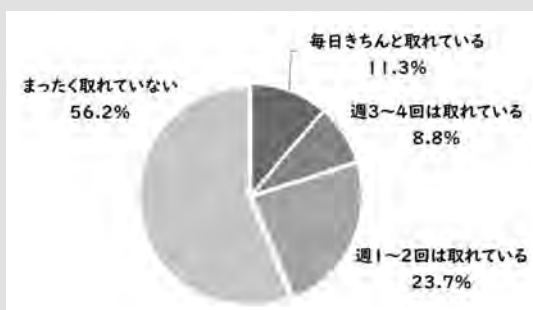
参加者感想より

自分たちが、今困っていることを声を上げて言うことの大切さを改めて感じた。「子どもたちのために」を第一に考えられる働き方をしていく。どの地域でも人員不足が特に深刻な問題になっていると感じた。その部分解消されると、負担も

減るのではと思う。どの教職員も、どの学校も今の状態である限り一生懸命働いていることが伝わってきた。がんばっている人が救われる、職場がよいと思う。教職員の仕量の軽減と同時に余裕ある人員配置をめざすことで、待遇改善と離職率の低下を実現できるのではないかと感じた。

この必要性を感じた。組合に入っていないという思いを話し合う機会がない。これまで、私たちの思いを伝えてきて下さった方に感謝しつつ、私たちが青年部を代表し、よりよく働けるように、要請行動に参加したい。労働条件の改善は急務だと感じた。「休めない」状況をなんとかするため、今後も組合の活動にとりくみたいと思う。

あなたは、休憩時間がきちんと取れていますか？



全体会の様子



分散会の様子



わたしたち青年教職員がいきいきと働き続けられる職場であるために、どのようなことが必要だと思いますか？（複数回答可）

